

「読むこと」「書くこと」領域における授業実践例

① 学年・単元名 第3学年「例の書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう」

② 単元のねらい

「食べ物図鑑をつくるために、文章構成や「中」の段落の順序に気を付けながら書く工夫することができる」

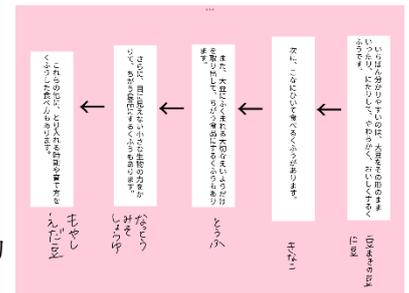
③ 指導の工夫

言語活動に食べ物の変化していく様子をまとめる活動を設定した。そのために、「すがたをかえる大豆」において、大豆の姿を変えていく様子を筆者がどのように伝えているのかを読んでいくことで、写真の活用や段落の順序の工夫を見つけ、自分の文章に生かしていくことができるようにした。

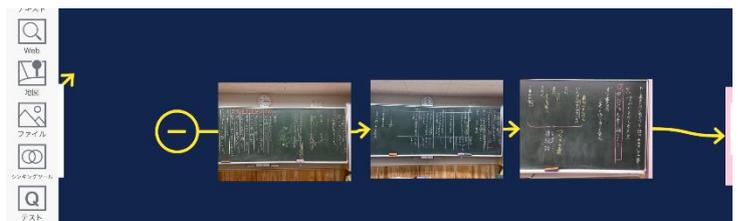
④ 活用したツール タブレット端末 (iPad) とクラウド型授業支援アプリ ロイロノート

⑤ 実践内容

・ロイロノートを活用し、筆者の「中」の順序の工夫を知ることができるようにした。その際、「中」の段落の文章をそれぞれ動かすことができるシートを作成し、児童が順序を考える際に活用できるようにした。児童は、順番に並べながら、食品を記入したり、順序が分かりやすい順になっていることに気付くことができた。タブレットを活用することで、移動が楽に行え、順序を考える際、有効に活用をすることができた。

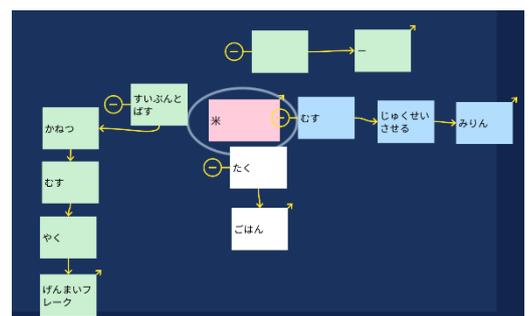


・ロイロノートに毎時間の板書の写真を掲載し、児童が自由に見ることができるようにした。そうすることで、児童が、本時の課題を解決するために、前の時間の板書を確認して、自分の考えをもったり、導入時に、前時の授業の様子を振り返り、本時の課題を明らかにしたりすることができた。



これまで、場面の読みを掲示して、個人追究時に見ることがあったが、ロイロノート上に板書載せておくことで、児童が必要な時に自分で確認し、読みに生かす姿があり、学習の繋がりを児童自身が感じることもできた。

・「すがたをかえる大豆」の学習を終えた後、「食べ物のひみつを教えます」の学習を行う際、ウェビング図を活用して、児童が決めた材料が何に変わるのか、どのように変わるのかをまとめるようにした。その際、3つまでに限定して作成することやそれぞれ色分けをして作成をすることで、つくられる工程がよく分かるようにした。そうすることで、ウェビング図を見ながら、「中」をどのような順序にするのかを考えたり、その順序の根拠を明確にしたりすることができるようにした。



⑤成果と課題（実践するときの留意点など）

○タブレット端末を活用した板書の提示により、学習を繋げて考える思考ができた。

○ウェビング図を作成したことで、工程が難しい食品が何か分かり、「中」の構成の作成に繋がった。

△ウェビング図などは紙に書くこともできるため、タブレット端末が必要かどうかを吟味することが重要である。